

しなののうた

見渡せる飯縄山の懐に新装なれる美術館映ゆ



杉田小百合

しなののうた

入館の横に座したる巨大石建て替ふ時に発掘せると

杉田小百合



しなののうた

秋空に爽やかな風身に浴びて風はテラスの我を遊ばす



杉田小百合

しなののうた

たちまちにミストに包まれ池端に立てる我は無我の境地に

杉田小百合



しなののうた

傍の人ら忽然消へ失せて騒つく声の其処此処聞ゆ



杉田小百合